

読書好きな子どもを育てよう ～楽しい取り組み紹介～

今回は、読書好きな子どもを育てるための活動や環境づくりを紹介します。ぜひ学級や学校で取り組んでみてください。

短時間で実践できる 読み聞かせの活動

「ダウトを探せ！」

既習の教科書教材で行う、やりとりを取り入れた読み聞かせです。読む人（教師またはクラスの希望者）は、ところどころわざとまちがえて音読をします。聞いている人は、まちがいに気づいたら「ダウト！」と言って挙手します。既習の文章であれば、全員が内容をわかっているの、その場で読み聞かせをしても、まちがいを探することができます。教科書掲載の文章はそれほど長くないため、短時間で行いやすいでしょう。説明文でも行うことができます。

季節にまつわる絵本の読み聞かせ

読み聞かせを行う季節に合わせ、その季節に関する絵本を読みます。梅雨の時期なら『おじさんのかさ』、お正月は『十二支のはじまり』などがお薦めです。また、学校図書館で、例えば「冬の絵本を探そう！」と呼びかけ、見つけた本をグループに分かれて読み聞かせし合うという活動もできます。易しい絵本ならば、2年生から取り組むことができ、高学年でも、絵本の奥深さやおもしろさを感じられる活動として有効です。



『おじさんのかさ』
作・絵：佐野洋子
（講談社）



『十二支のはじまり』
文：岩崎京子
画：二俣英五郎
（教育画劇）

あおぴーの

まなびのぽけっと



昭和学院小学校 校長
あおき のぶ お
青木 伸生

学級で行える 読書を促す環境づくり

ブックリスト読破企画

学級担任や学校司書が、発達段階に応じたお薦め本を選び、各学年10冊程度のブックリストを作ります。それらの本を読破したら、賞状や手作りメダルなどがもらえるという企画です。学年の先生が3人いれば、一人3冊選ぶと10冊程度になり、学年の取り組みにもできます。もし読破達成者が多ければ、前期は学年の先生、後期は校長先生や教頭先生など、いろいろな先生が選んだブックリストを作成するとよいでしょう。「校長先生のお薦め本読みました！」といった会話のきっかけにもなります。

読書ビンゴ

クラスで、一人1冊お薦めの本を持ち寄り、読書ビンゴを作ります。ビンゴのますにあるお薦めの本を読んだら、印をつけ、一列そろったらビンゴです。4×4や3×3のますで複数のビンゴカードを作ると、みんなのお薦め本をお互いに読み合うことができます。ブックリストの企画と組み合わせ、学校の先生を巻き込んだビンゴを作ることもできるでしょう。



ブックリストや読書ビンゴの取り組みは、お薦め本の取り合いになる可能性があるの、本の用意が必要であることに注意しましょう。

Vol.
16

小学国語通信

教育出版

ことばだより KOTOBADAYORI

図書館から応援！

学習支援専門員 雨宮紀美子先生にインタビュー

公共図書館の本を学校へお届けする学習支援専門員のかたへインタビューしました。



松戸市立図書館 学習支援専門員
あめみや きみこ
雨宮 紀美子

編集者



ふだんは、どのようなお仕事をされていますか？

学校現場の先生から依頼を受けた本を貸出ししたり、「貸出セット」の内容の見直しをしたりしています。また、毎月、学校へお届けする、図書館と学校との連携について記したお便りを作成しています。ほかにも児童・生徒向けのイベントを開催したり、小学校への出前授業を行ったりしています。

雨宮先生



ふだんの仕事現場
（松戸市立図書館）



学年やテーマごとに
まとめられている本棚

編集者



「貸出セット」とは具体的にどのようなものですか？

同じ作者やテーマの本をまとめたセットです。国語の授業で活用できる「あまんきみこセット」や「棕鳩十セット」、調べ学習で活用できる「生き物セット」や「警察署セット」などがあります。各学年、各教科の学習内容に応じた「貸出セット」を数多く用意しています。

雨宮先生



編集者



「児童・生徒向けのイベント」はどのようなことをしていますか？

お題を示して図書館から本を探し出す「図書館クエスト」の開催や、「POPコンクール」の開催・審査をしています。また、「POPの作り方講座」や、科学系の本の読み方を学ぶ「理科読講座」を行っています。

雨宮先生



編集者



お薦めの図書館活用方法を教えてください。

並行読書や調べ学習、発展学習にご活用いただけたらと思います。松戸市では、学校現場の先生のリクエストに応じて、「貸出セット」にはないテーマのセットを用意することができます。

雨宮先生



編集者



最後に先生がたへ一言お願いします。

公共図書館にはニーズに合った本を用意できる強みがあります。やることがいっぱいあってなかなか……、というのが実情だと思いますが、ぜひご活用いただけたらと思います！公共図書館から応援しています！

雨宮先生



小学国語通信

小学国語通信 ことばだより Vol.16 2025(令和7)年10月発行

ことばだより
KOTOBADAYORI

教育出版株式会社 教育DX編集本部 国語科

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館 TEL:03-5579-6278(代表)

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配布を許可されているものです。

中学年
向け

単元名

本の世界を広げよう！
ジャンル・ルーレット・ブックトーク



稲城市立稲城第一小学校 主任教諭
なみ ひさ はや と
浪久 隼斗

目標

- ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。……知技(3)才
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。……思判表C(1)才

本単元で取り上げる言語活動について

本単元では、児童がゲーム感覚でさまざまなジャンルの本を手にとって読むことのできる活動（第4時で行う「ジャンル・ルーレット・ブックトーク」）を取り入れました。ルールは以下のとおりです。

1

各グループでルーレットを回して、読む本のジャンルを一つ決める。

2

決まったジャンルの本棚の中から1冊の本を選ぶ（選ぶ基準は、「表紙が好き」「題名が気になる」など簡単な理由でよい）。

3

「味見読書」をする（5分ほどの短時間で、選んだ本を読む）。

4

読んだ本を紹介する。

5

紹介を聞いて、自分が読んでみたいと感じた本に投票する。



学習指導計画（全4時）

時	学習活動	指導上の留意点
1	○日本十進分類法を使い、本にはさまざまなジャンルがあることを知る。 ○日本十進分類法をもとにして、ふだん自分がどんなジャンルの本を読んでいるかを友達と伝え合う。	○実際に学校図書館に行き、日本十進分類法を教えると同時に、分類別にどのような本があるのか、表紙を見せて児童の興味や関心を高める。
2	<ルール 2・3 の練習> ○さまざまなジャンルの本で「味見読書」を行い、自分なりの感想を書く。 ○ジャンルを変えながら繰り返し「味見読書」を行う。	○事前に、教室など身近なところに本を置いておき、期待感を高める演出をしておく。児童の読書傾向とは異なる選書をする。選書は司書に依頼する方法も考えられる。
3	<ルール 4・5 の練習> ○本の紹介の方法を知る。 ○前時に読んだ本の中から好きな本を選ぶ。 ○グループ内で、選んだ本を紹介し合い、紹介を聞いて「読んでみたい。」と感じた本に投票する。	○本時では、本の題名と本の内容の一部を紹介する程度にする。読書の幅を広げることが目的のため、話し方の指導は最小限にとどめる。 ○投票を行うという目的を設定することで、友達の紹介した本に興味をもてるようにする。
4	○紹介する本のジャンルをルーレットで決める、「ジャンル・ルーレット・ブックトーク」を開催する。	○話すことに抵抗感のある児童には、簡単な紹介でよいことを繰り返し伝えたり、穴うめ式の台本を用意したりして、活動への意欲を下げないようにする。

指導にあたって

- 【ルーレットについて】** ルーレットは、右の二次元コード先のものをご利用ください。教師がジャンルを設定できるようにしてあるので、児童の実態に応じて調整できます。
- 【第2時の「味見読書」について】** 感想を書く際は、文章で書くだけでなく、三つ星で評価するなど、簡単な方法も考えられます。読んだ本をグループ内で回していくことで、選んだ本を子どもどうして読み合うこともできます。



〈ルーレット〉

高学年
向け

単元名

私の「推し本」紹介します
～私にとっての読書の価値、再発見!～



富士見市立針ヶ谷小学校 教諭
かわ はた な ゆ た
川畑 那由昂

目標

- ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。……知技(3)才
- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。……思判表C(1)力

本単元で取り上げる言語活動について

本単元では、「推し本」を紹介するという言語活動を設定します。児童は、自身の「推し本」を決定し、紹介する過程で、これまでの読書経験を振り返り、読書と自分との関わりについて考えていきます。これらの活動をとおして、改めて自分にとって読書とはどのようなものなのかを考えたり、読書の幅を広げたりできるようにします。



学習指導計画（全6時）

時	学習活動	指導上の留意点
1	○本について友達と自由に話をする活動をとおして、これまでの読書経験を振り返り、自分にとっての読書の価値を考える。 ○自分が好きな本の特徴など、自分自身の「好き」を見直す。	○これまでの読書経験を振り返ることができるように、本を事前に何冊か選んでおくよう伝えたり、学校図書館で学習を進めたりすることも想定できる。 ○自分がどのような特徴の本を気に入ったり、選んで読んでいるのかに気づけるよう、視点（ジャンル・人物・設定・表現など）を示す。
2	○自分自身の「好き」と、これまでの自分の読書経験を結びつけ、自分にとっての「推し本」を決める。	○選んだ本と自分の関係を、これまでの経験などから振り返りながら、なぜその本が「推し本」なのかを言語化できるようにする。
3・4	○「推し本」を、どのような形式で伝えるか（文章、ポスター、ポップ、本の帯など）を決定する。 ○「推し本」を、どんな人に読んでもらいたいのか、本を選んだ理由が相手によく伝わるかどうかなど、相談し合う時間を確保しながら、作品を作成する。	○伝える相手と目的を明確にもてるようにすることで、書く内容を整理できるようにする。 ○言語化したり作成したりすることが難しい児童が、友達の考えを参考にしながら学習を進めることができるように、交流がしやすい環境を整える。
5	○作成した作品をもとに、「『推し本』交流会」を行う。	○可能であれば、学校図書館にコーナーを作ったり、昼の放送で発表したりするなど、学習の成果を広く発信することができる環境を整える。
6	○前時までの活動を振り返り、自分にとっての読書の価値について改めて考える。	○「推し本」を交流して感じたことも踏まえ、自分の考えをもてるようにする。

指導にあたって

- 【読書の価値を考えることについて】** 「読書」と聞くと、なんとなくよいものだ、やったほうが自分のためになる、と考えることが多いのではないかと思います。しかし、一方的に教師の考えを押しつけるような指導にはならないようにすることが大切です。子ども一人一人の読書経験に寄り添い、自分にとって読書とはどのようなものなのかという、読書の価値に気づけるような活動ができるよう、教師自身も自分の言葉で読書の価値を語れるようにしておくとういと思います。
- 【言語活動の成果物の設定について】** 本単元では、「推し本」の紹介をどのような形式で行うかについては、子どもに委ねることを想定しています。これまでの学習経験を踏まえ、それぞれの形式のよさを考えながら選択できるとよいと思います。